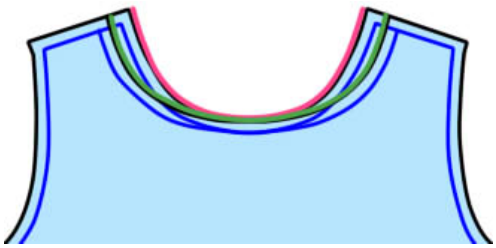
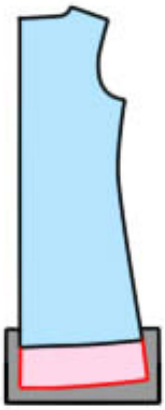
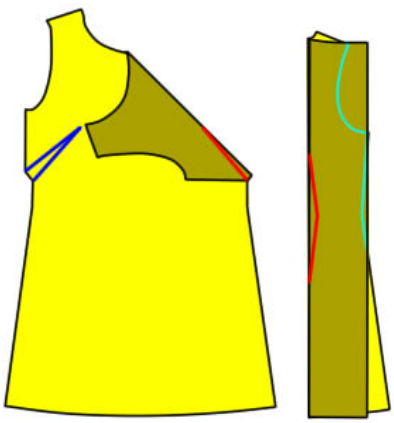
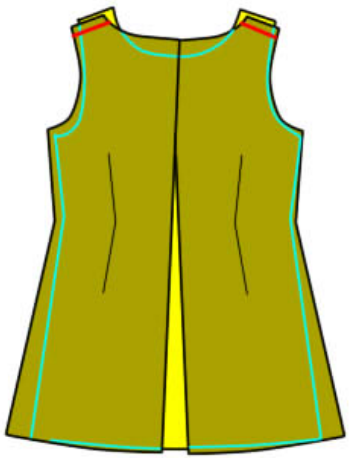
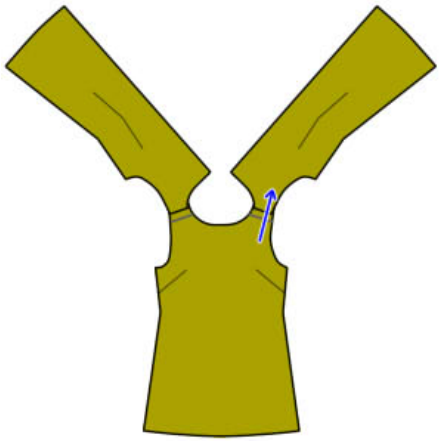
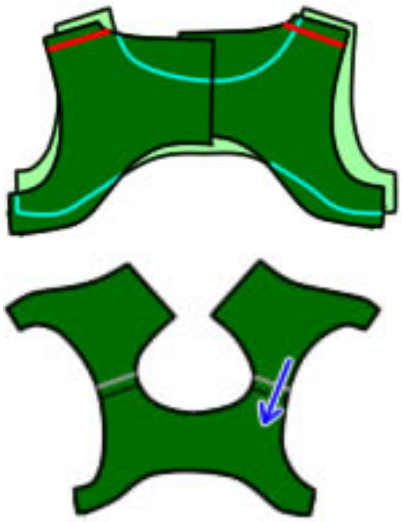
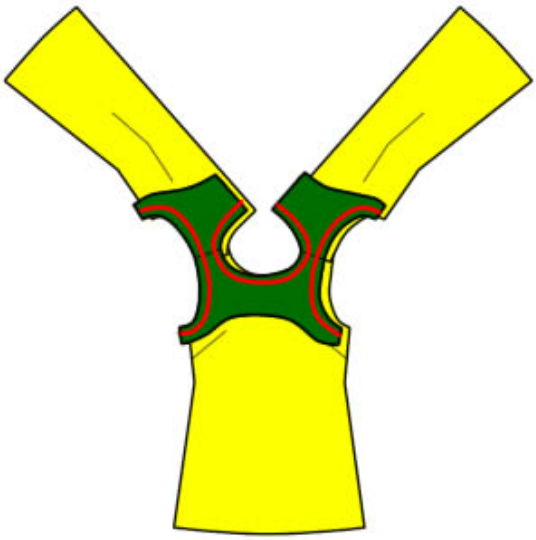
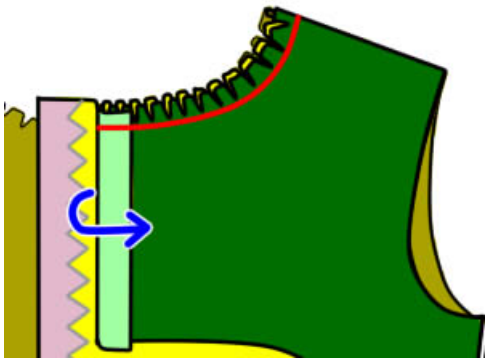
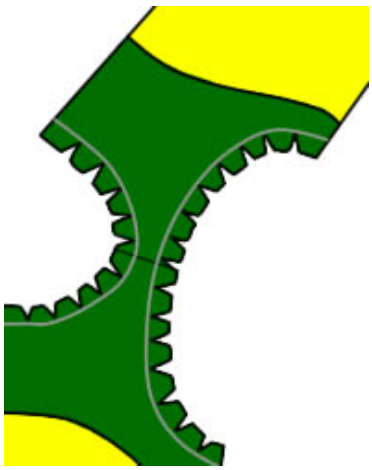
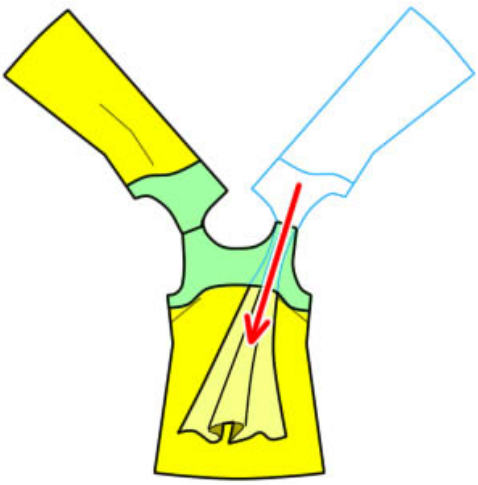
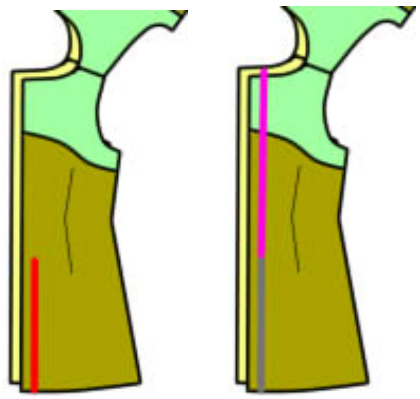
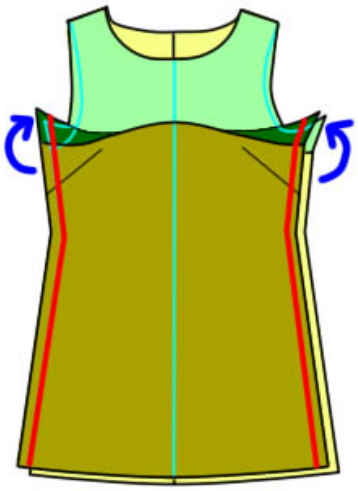
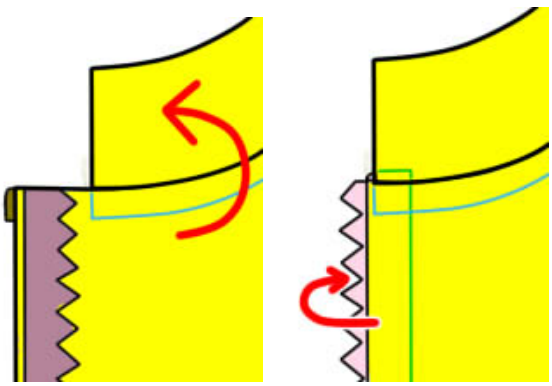
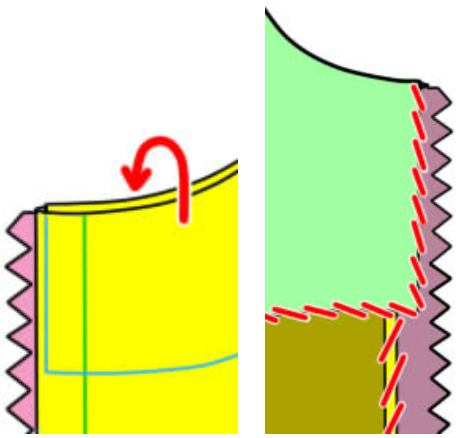
	えりはピンクの線で切ると 左のようにえりぐりが狭くなります。 緑の線で切ると広くなります。 型紙を体に当てて鏡を見ながら、お好みの方で作ってください。
	丈も5cm刻みで線を引いているのでお好みの長さで作って下さい。 長くしたい時はすその下に紙を足して、伸ばしたい分すそに対して平行に線を引いてください。
表　裏　接着芯	裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 えりの裏に接着芯を付けてください。 くわしくは縫う前の下準備を参照 模様とかをつけたい場合はこの時点で入れてください。
	ダーツ(立体にする為のつまみ)を縫ってください。 ・ダーツの縫い方 ダーツを裏が見えるように半分に折って縫って下さい。 脇側は必ず返し縫いして、先の方は長めに糸を残し、手縫いで真結びして糸を切って下さい。

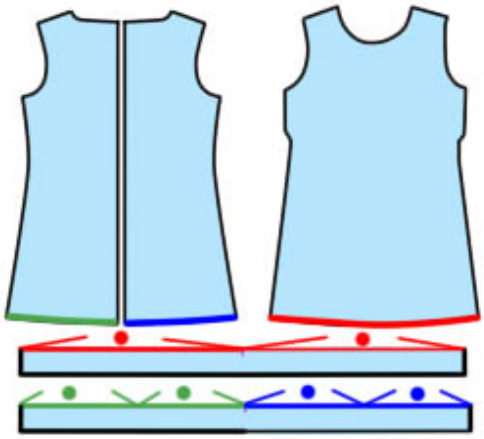
	前と後を内側が表になるように重ねて、肩を縫ってください。 見返しをつけるまでの流れはベストの縫い方と同じなので動画を参考にしてください
	広げてください。 肩の縫い代は後身頃側にアイロンで折って下さい。
	表　裏 見返しも前と後を表が内側になるように重ねて肩を縫ってください。 広げてください。 肩の縫い代は前身頃側にアイロンで折って下さい。

	表にした身頃の上に、裏を上にした見返しを重ねて下さい。 この時身頃の肩の縫い代は後身頃側へ、見返しは前身頃側になるように折って下さいね。 えりとそでぐりでは逆にならないよう注意してくださいね。
	見返しのえりの後中心を縫うときは、後中心を出来上がり線より3～5mm脇側にずらし折って下さい。 （洋裁工房の型紙でいうと、ファスナーの所は縫い代が1.5cm付いていますが、1.8～2㎝で折るということです） こうすると見返しがファスナーのムシ（レール）ギリギリにならず着替えの時に見返しがファスナーのスライダーに食い込んだりしにくくなります。
	カーブに切り込みを入れてください。 切込みを入れないと、カーブは出来上がり線と縫い代の端では弧の長さが違うので、引きつってしまいます。 なので縫い目を切らないように切込みを入れてください。
	前身頃と見返しの間からてを突っ込んで後ろ身頃を引っ張り出してください。

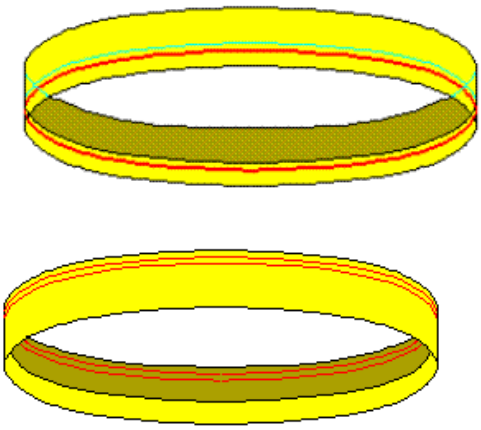
	後中心を縫ってください。 ファスナーをつけるので、ファスナーつけの所は縫わないで下さい。 後中心を塗ったらピンクの所にコンシールファスナーをつけてください コンシールファスナーの縫い方はこちら
	見返しを広げ見返しの端からすそまでを縫ってください。
	見返しを上に向かって折ってください。 ファスナーを裏に折ってください。
	見返しを裏へかぶせてください。 アイロンをかけて形を固定してください。 見返しの端とファスナーの端を手縫いでほつれどめしてください [まつり縫いの仕方動画はこちら。](#)

表の端から5mmの所を縫って見返しが浮かないように固定してください。

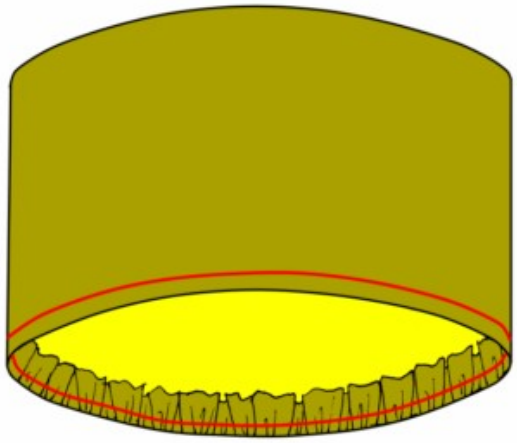
すその縫い代をアイロンで折って端（ほつれどめしている所）から5mmの所を縫ってください。

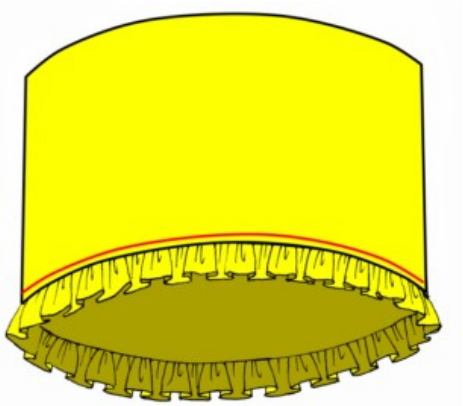


すそにフリルをつけたい場合は
横　すその長さをはかりすその長さの1．5～2倍の長さ。
縦　作りたい長さ+縫い代2cm
横の長さが1．5～2なのは生地の厚みや張りでボリュームがかわるので、ギャザーの寄せ方を参考にボリュームを決めてください。

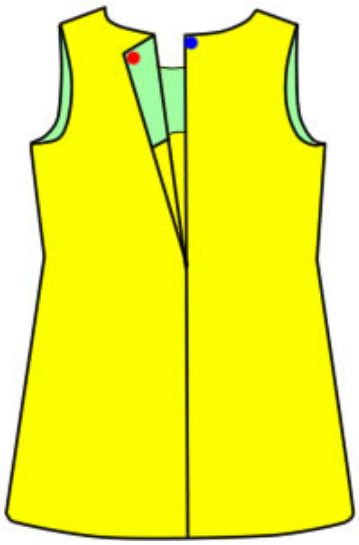


2枚をつなげてわっかにする。
下の縫い代を折り縫ってください。
上側にギャザーを寄せてください。
ギャザーの寄せ方





内側同士が表になるようにすそと、フリルをかさねて縫ってください。
フリルを表替えして、表から5mmの所を縫ってください。
フリルではなく、レースでも可愛いですよ。



後中心の一番上にスプリングホックをつけてください。
ホックのつけ方

必要な材料

表生地、ファスナー(付ける場合）、スプリングホック、糸、接着芯

適した生地

やわらかく軽い感じにしたい場合（光沢がない）

アムンゼン
光沢がなく柔らかくドレープ感のあるデザインに向いています。
写真の洋服はアムンゼンで作ってあります
化繊なので軽く、しわが入りにくいです。
ポリエステルツイ ルより軽いです。
ややテロテロしているので裁断のとき少しずれやすいです。

結婚式の参列や、発表会のドレスにしたい場合は(光沢がある）

ポリエステルサテン
シワになりにくく、軽く、光沢があります。
ポリエステルのものはご自宅の洗濯機で洗えるので便利です。

普段着として着たい場合
シーズン問わずに利用出来るのは綿ツイルです
色数も多く一般的な手芸店でも比較的容易に手に入ります

冬場は、コーデュロイ等の起毛(毛のたった)生地やツイードなどの厚手のウール地で作ってもいいですね。
ウールなどの場合は表地と同じ形で丈を短くしたものを使って裏地を作ってもいいですが、
スリップドレス(丈の長いキャミソール)を下に着れば裏地は不要です。

あまり薄すぎる綿はすけたりシワになりやすかったりします。